

スカートの子リーツに関する一考察 (第5報)

市 村 ノ ブ

諸 言

アンブレラ・子リーツスカートは雨傘のように放射状に子リーツを折りたむ子リーツスカートである。前回までの研究である程度の結果を出すことができたので、今回は子リーツ数が多く製作する上で最も困難度の伴うアンブレラ・子リーツスカートをロングで素材別に実物大で試作・製作し、美しく安定した子リーツが実際に作製し得る要因を見い出そうと試みることにした。

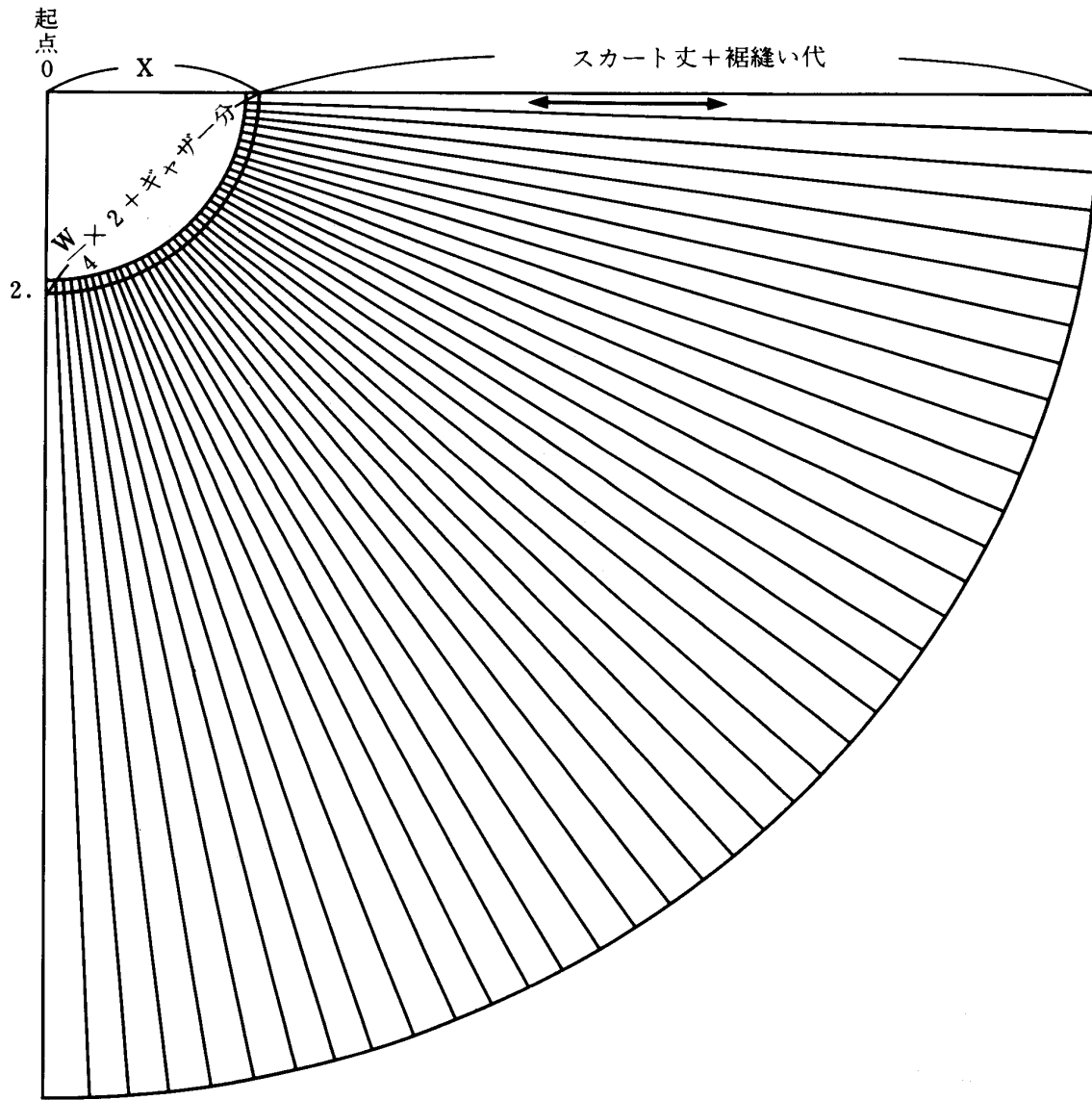
I 試 作

素材別 実物大布によるアンブレラ・子リーツスカート

(1) アンブレラ・子リーツスカート作図

起点0から半径の円弧を長さを $\frac{W}{4} \times 2 + \text{ギャザー}$ 分になるようにXときめた、スカート丈+裾縫い代の弧を描き裾線とし、W、Lを40等分・裾線40等分して表ひだ山とかげひだ山の線を描く、W、Lに縫い代2cmを描いて表ひだ山とかげひだ山の線を延長して描く、ハترون紙に作図する。

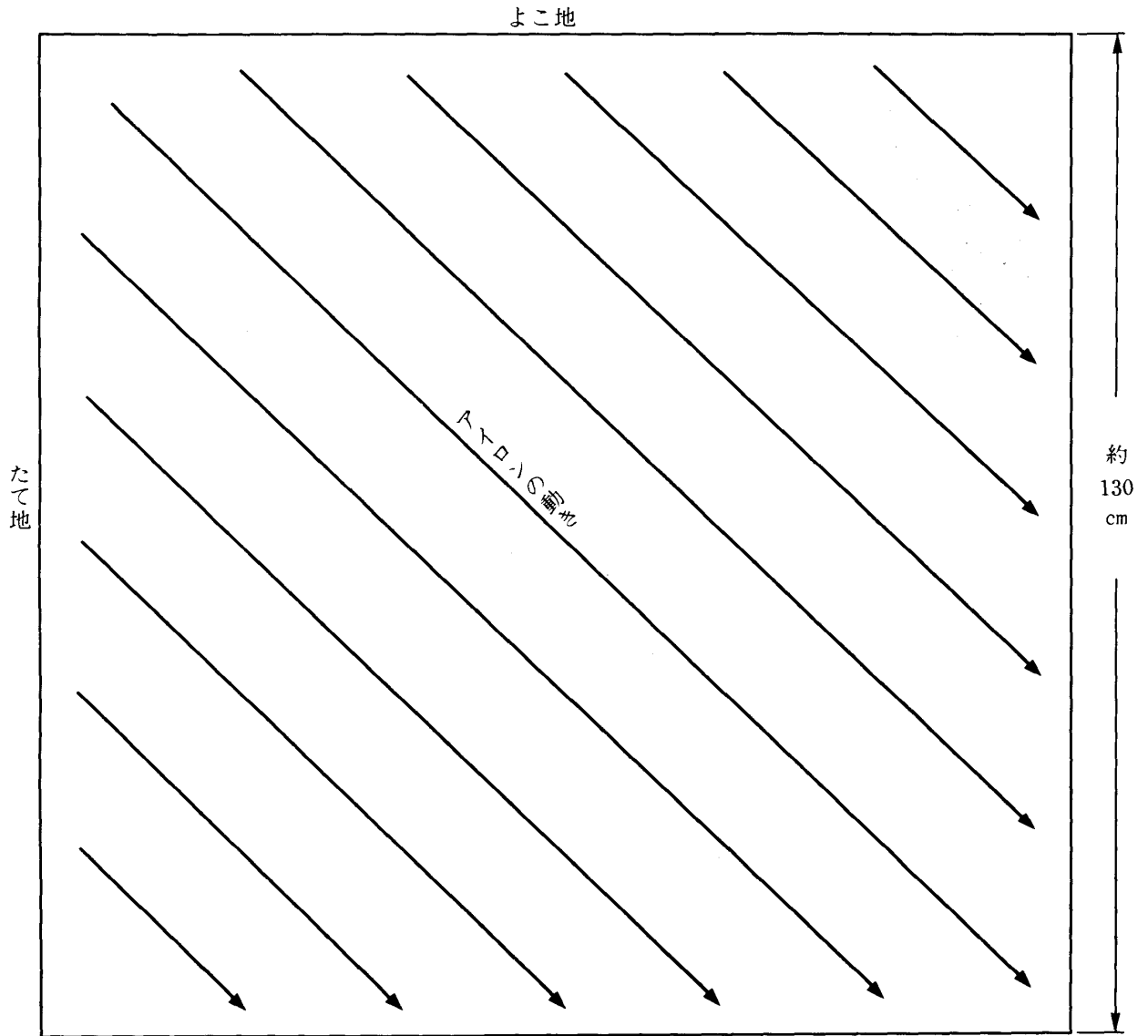
アンブレラ・プリーツスカート作図



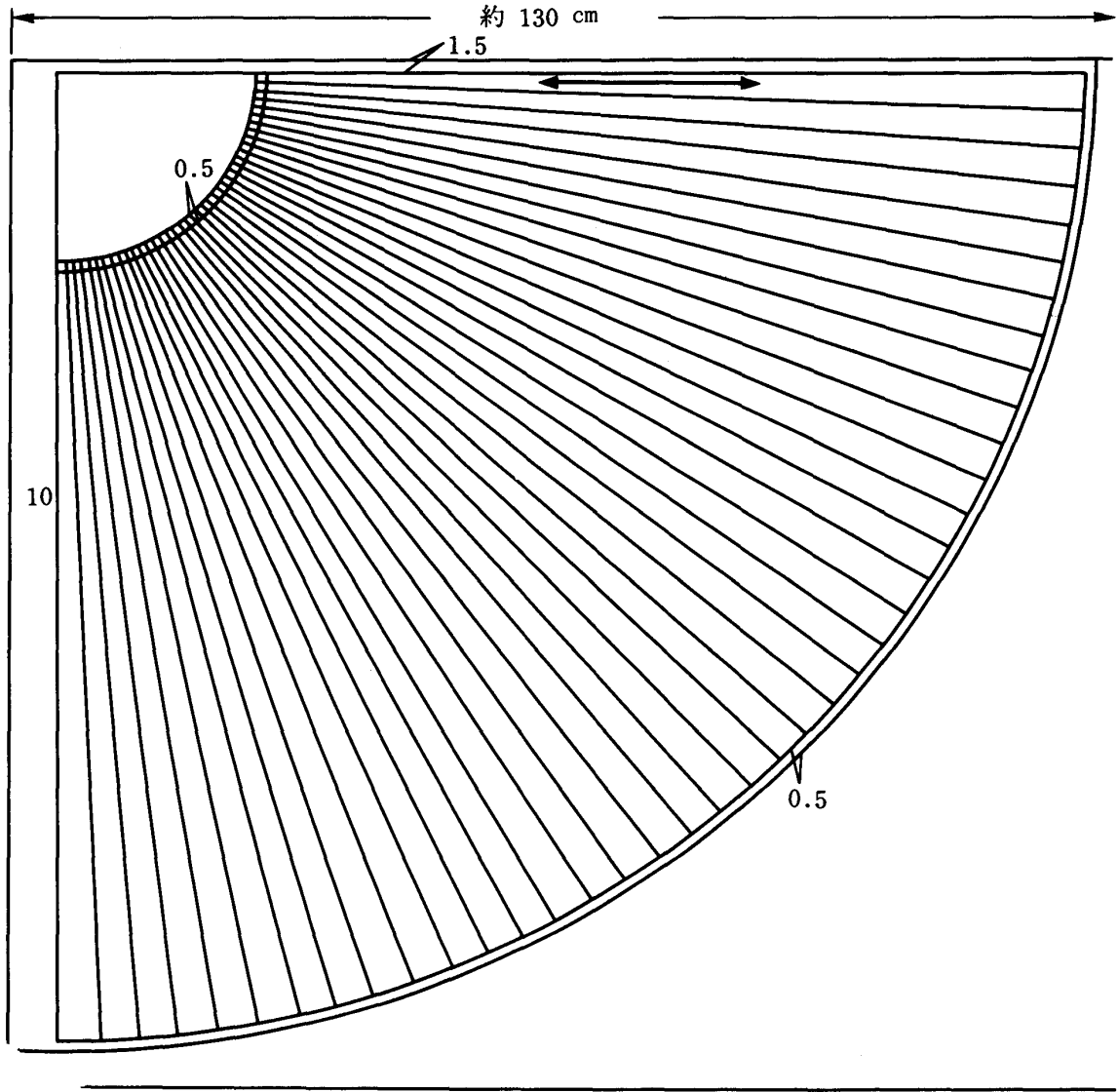
プリーツ分40等分

(2) あら裁ち 約130cm (スカート丈+約35cm)

(3) 事前伸し



(4) 裁断



(5) スカート丈と型紙を合わせしつけ

スカート地の表に型紙の裏を合わせて、たて地と中心線を合わせ縫い代をつけてピンを打つ、次に表ひだ山3本にピンを打ってスタンに垂下してつり合いを調べながら合わせる。正バイアス部分とたて地・よこ地の中間部分とスカート丈の中程から裾にかけて、だぶりやずれができやすいので、W、Lから自然に垂下した状態で表面のみでなく裏面を返してつり合いを調べながらピンを打ち合わせる。次に表ひだ山とかけひだ山に絹ミシン糸で2目落しでしつけする。

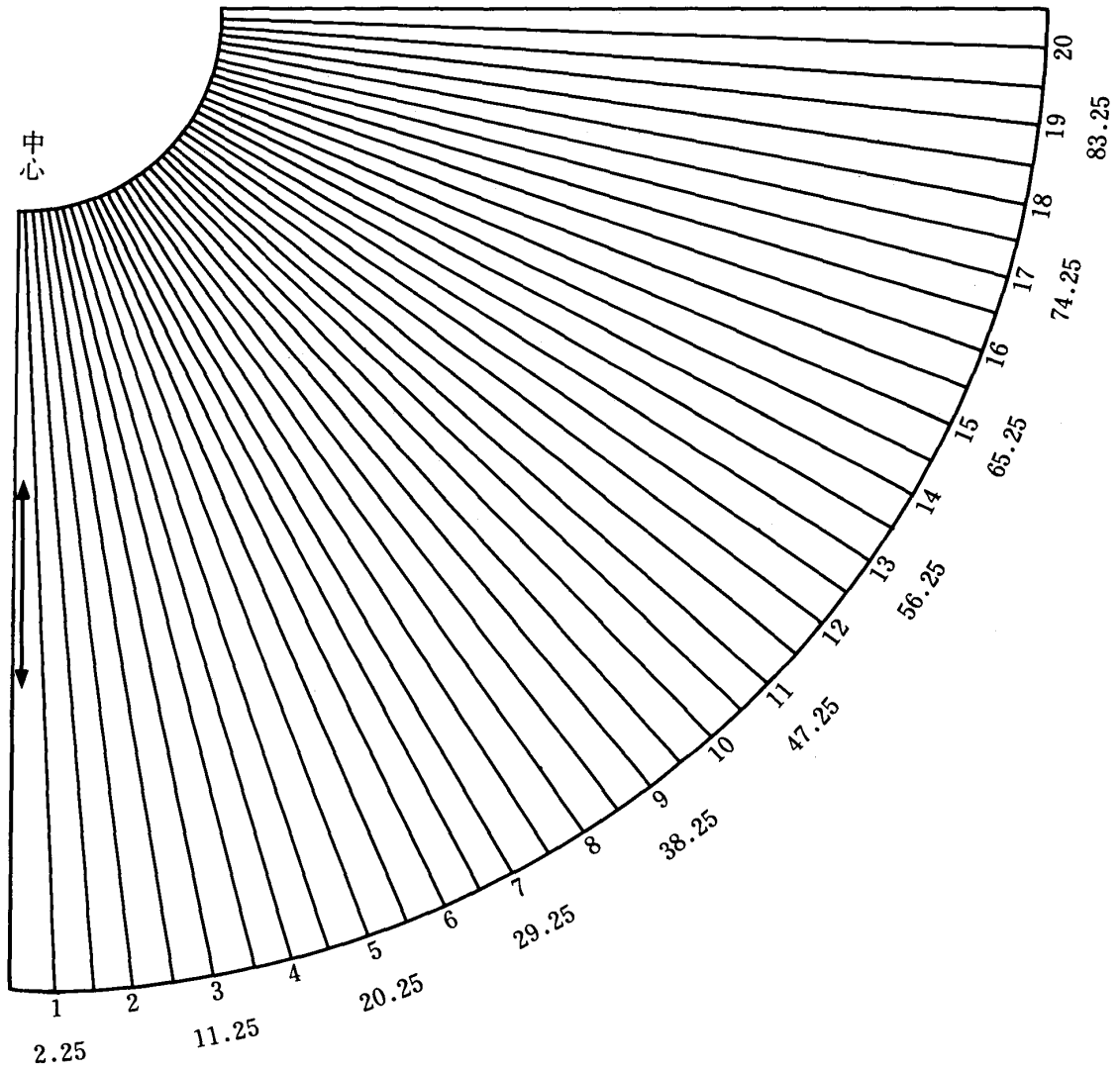
(6) プリーツ熱セット

用具はアイロンを日立自動アイロンA-542 100V500W温度は約130°C当布はスレキ40cm 正方とハترون紙巾約7cm丈約1m5枚を準備する。はじめに表ひだ山のW、Lから裾にかけて折り目つけのアイロンをして、次に当布に水をふくませて折り山から約2cmに水をつけてアイロンの温度と重圧をかける。1本1本丁寧に努めて均一に熱セットする。素材によりプリーツ折り山の両側から熱セットする。

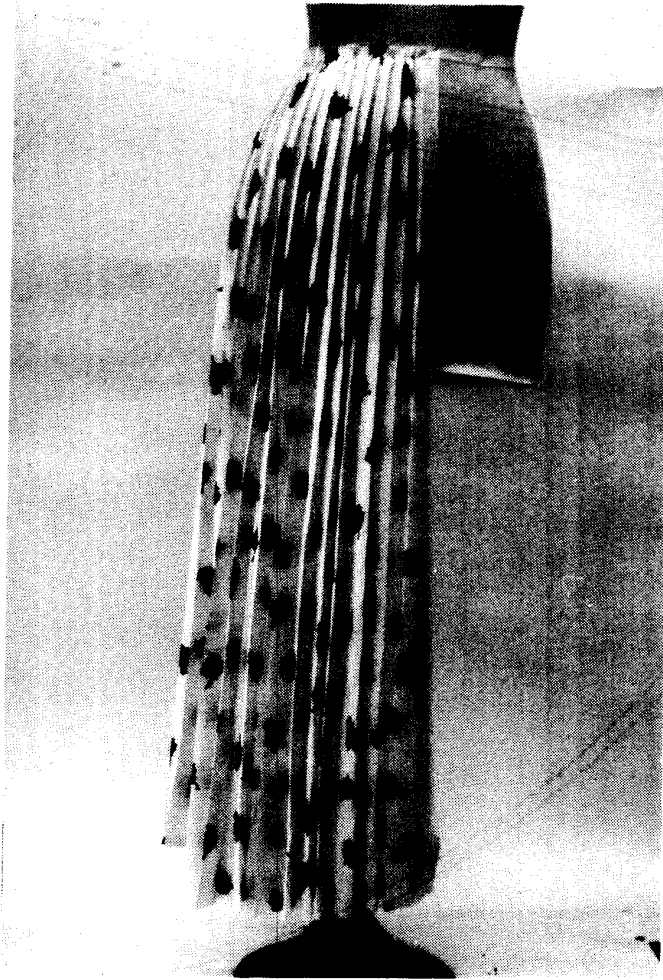
(7) 垂下による伸長度を計る

型紙をはずしてW、Lを縫いちぢめて、スタンにピンで止め1週間後にL尺で床から計ってピンを打ち裁ち揃える。

表ひだ山番号と放射角度



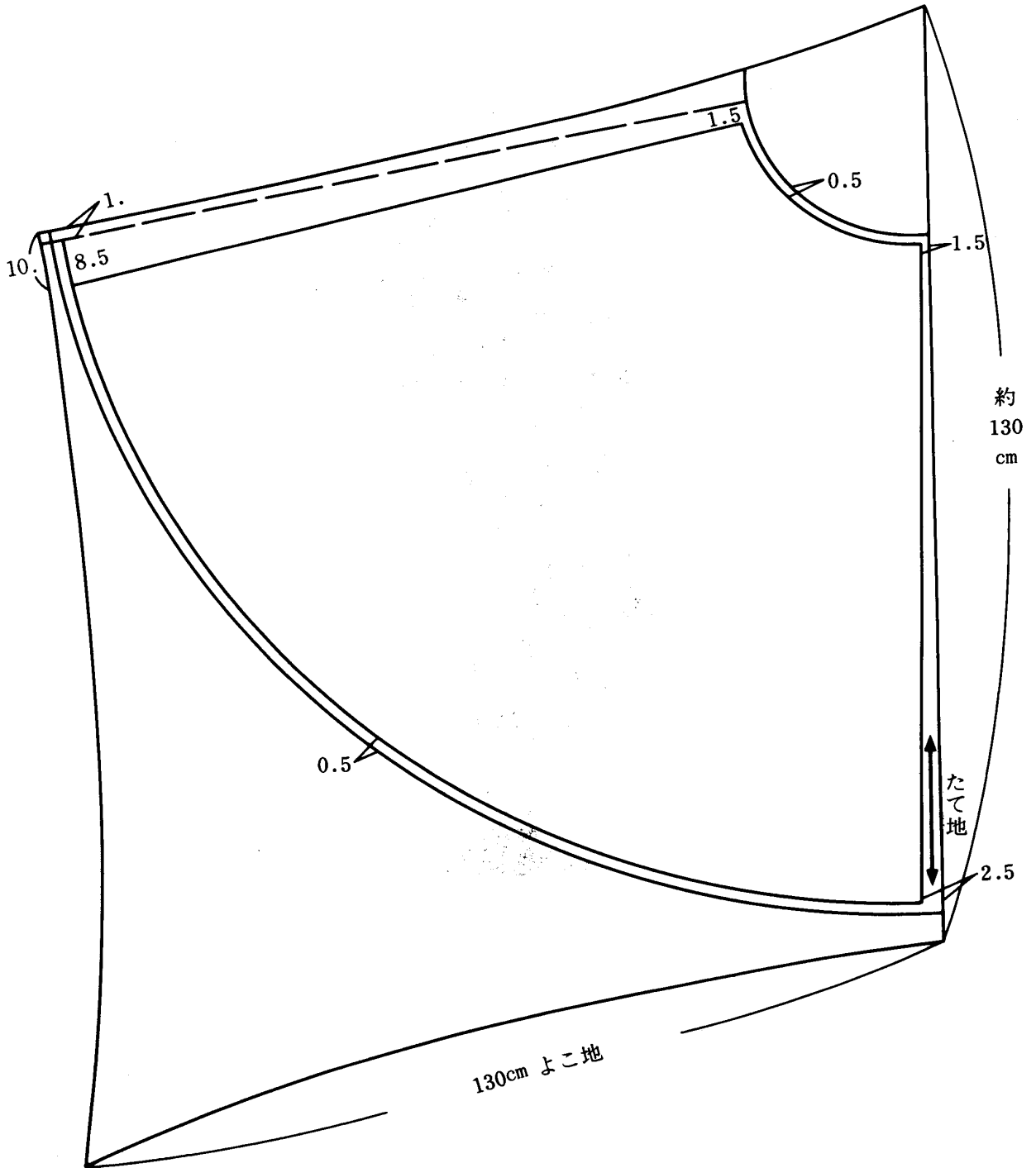
試作 I



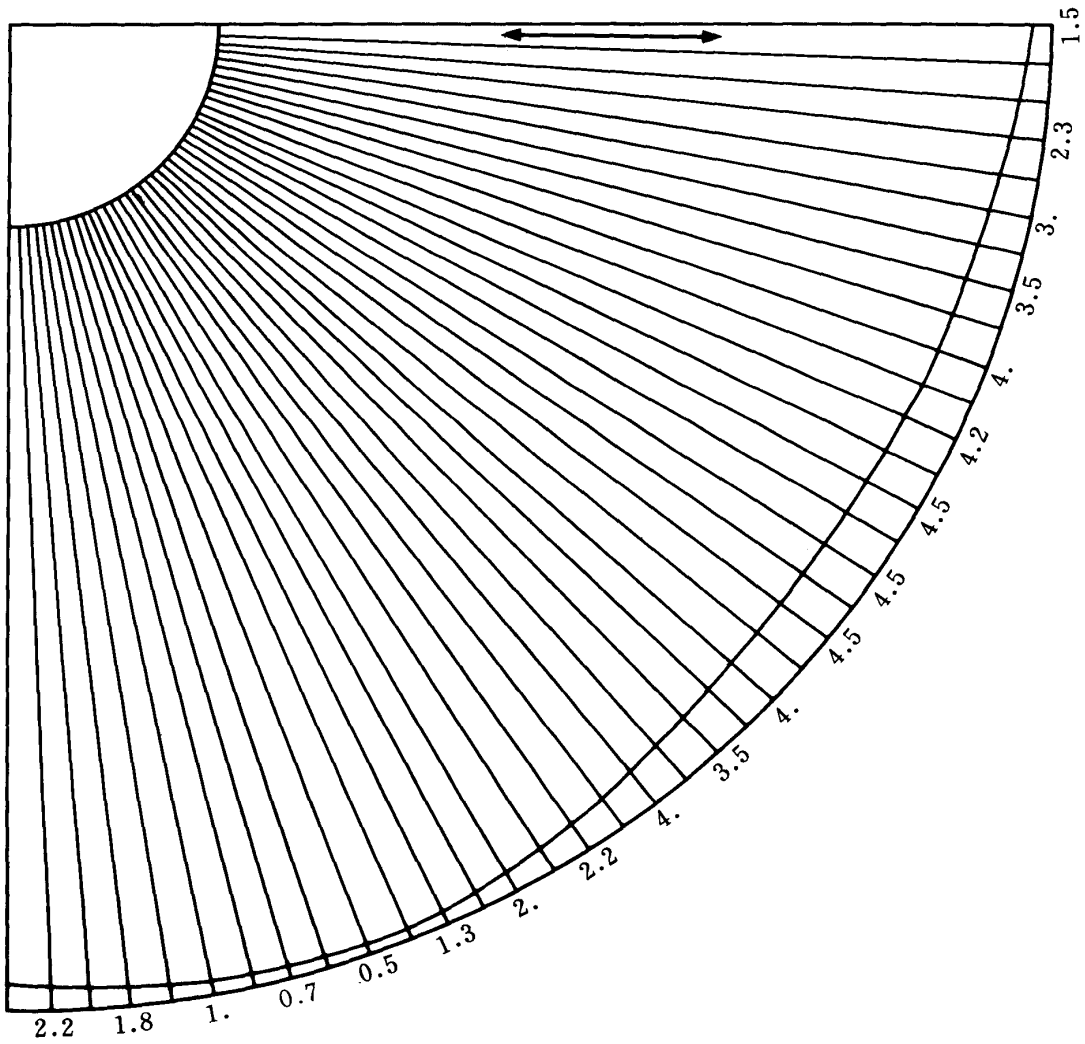
素材 サテン (薔薇模様) ポリエステル100%

丈 130cm 巾 130cm

試作 I 事前伸し後の布の変形・裁断・プリーツ折り山しつけ後の脇線のずれ



試作 I 垂下による表ひだ山伸長度

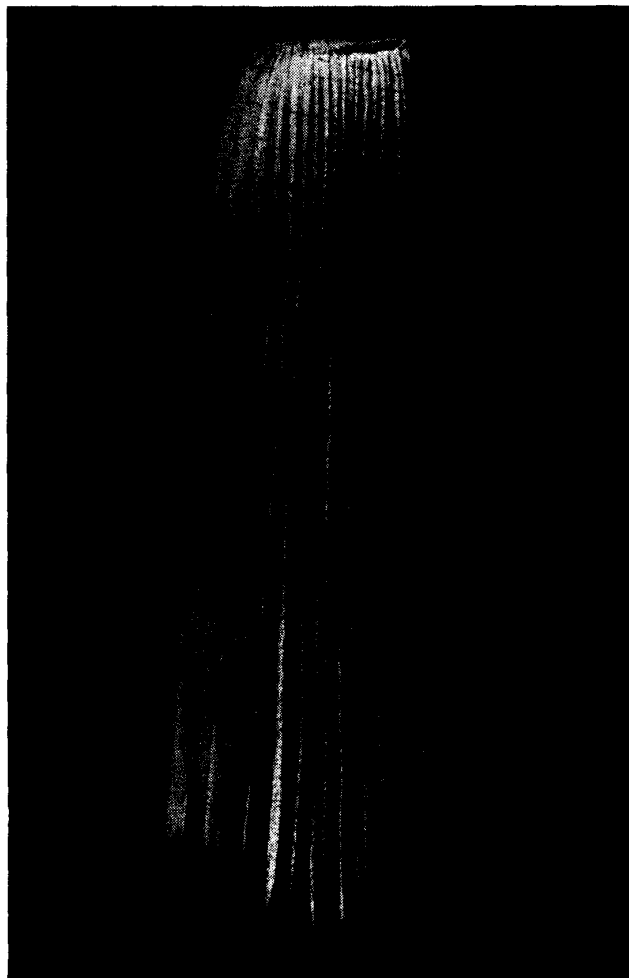


試作 I

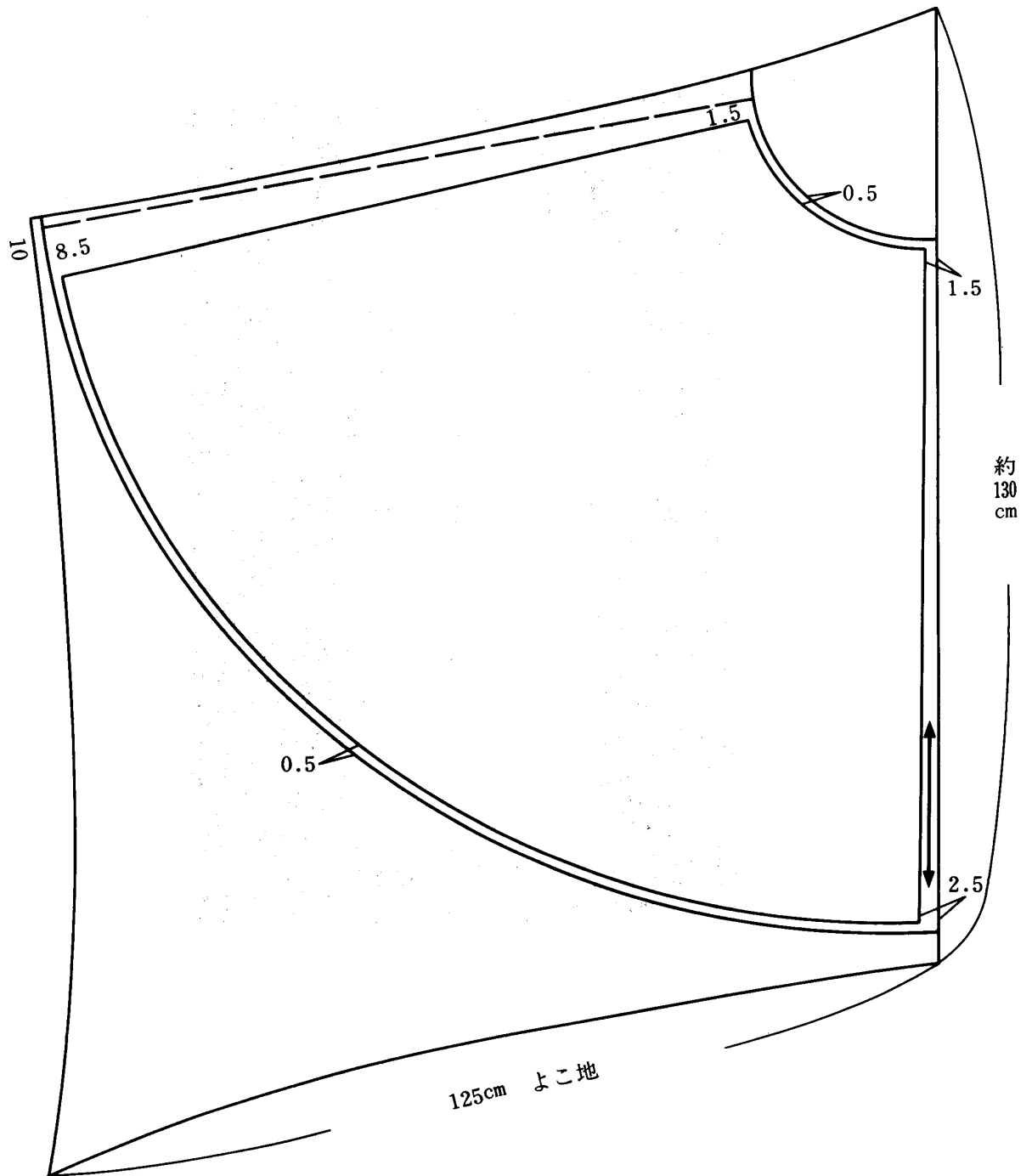
素材 サテン (薔薇模様) ポリエステル100%

素材は薄手サテンで布面は光沢があって、裏面はデシンで手触りがしなやかで軽い。事前伸しは素材が薄手で光沢を損ねないために、ドライアイロンで2回伸した。中央のバイアス部分は薄地で伸びやすいので強く伸しすぎないようにした。バイアス部分とたて地・よこ地の中間部分にひずみができやすいので布の状態を十分に検討して事前伸しをした。伸し処理後の戻りを考慮して4日間スタンに垂下してから裁断した。型紙合わせではバイアス部分とたて地・よこ地の中間部分がだぶりとずれができやすいので、表面だけでなく裏面を返してスタンに垂下し一部だけでなくスカート全体が型紙と自然な状態で合わせられているか十分に検討して合わせた。プリーツ熱セットは素材が薄手でやりやすかった。熱セット後表ひだ山9本目がミドルヒップからたて地側にカーブが見られたので、手で斜・たて・よこに布を引いて様子を見てからアイロンで押えた。2週間後プリーツ折り山は全体的にねじれは見られなかった。薄手サテンで白地に紫の薔薇模様のつややかなそしてドレッシーな生地を見たよりプリーツに折って一層優雅なプリーツスカートができた。

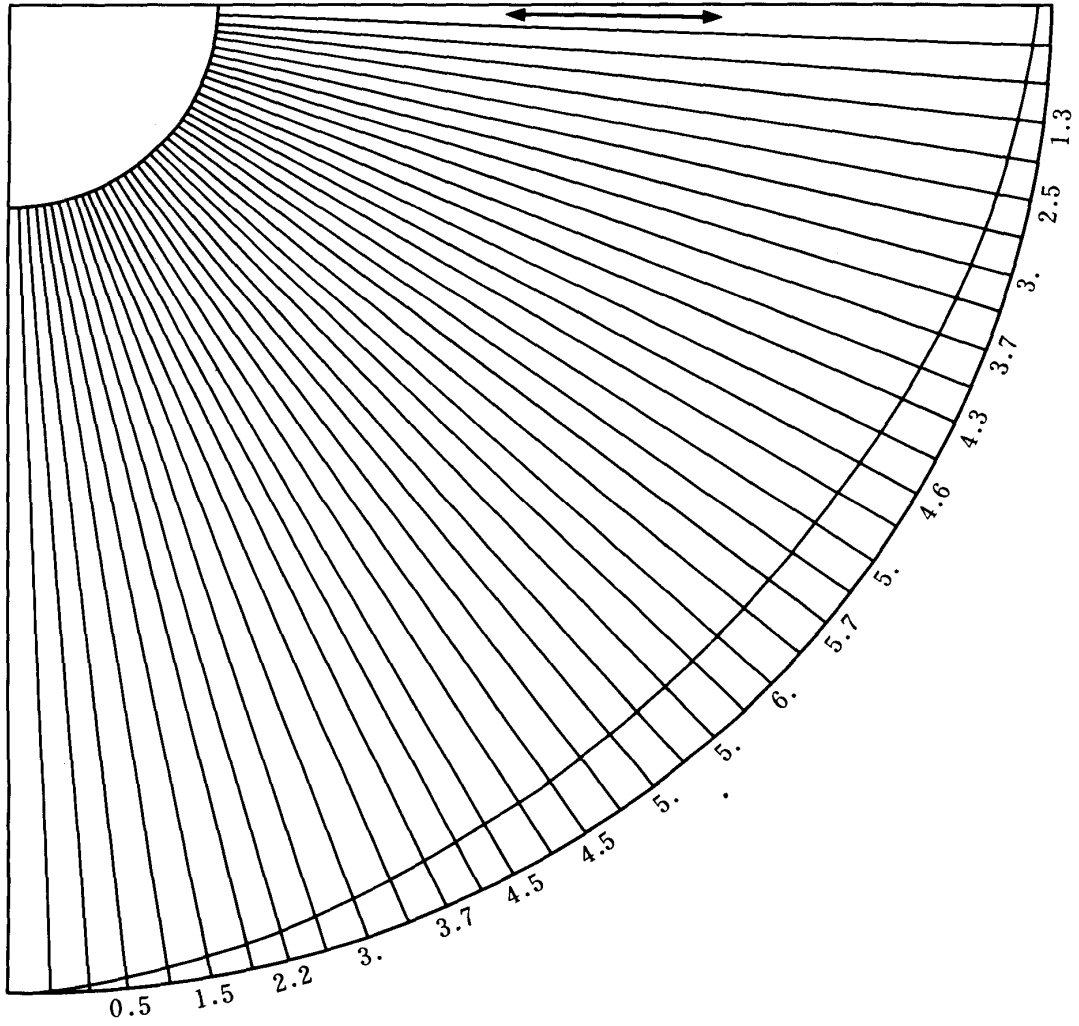
試作 2



試作2 事前伸し後の布の変形・裁断・プリーツ折り山しつけ後の脇線のずれ



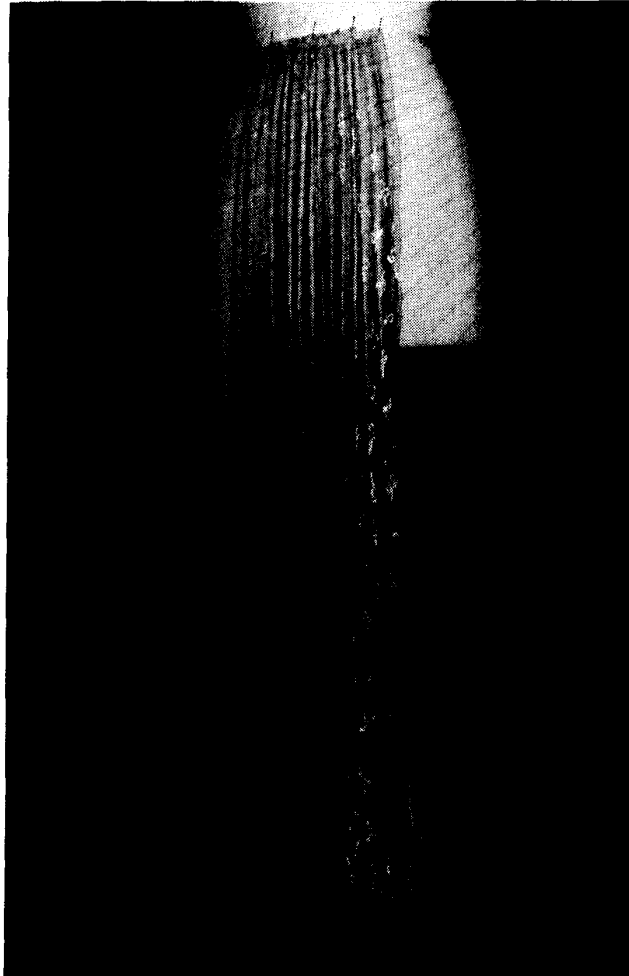
試作2 垂下による表ひだ山伸長度



試作2 素材 ジャカード(薄手)波紋模様ポリエステル100%

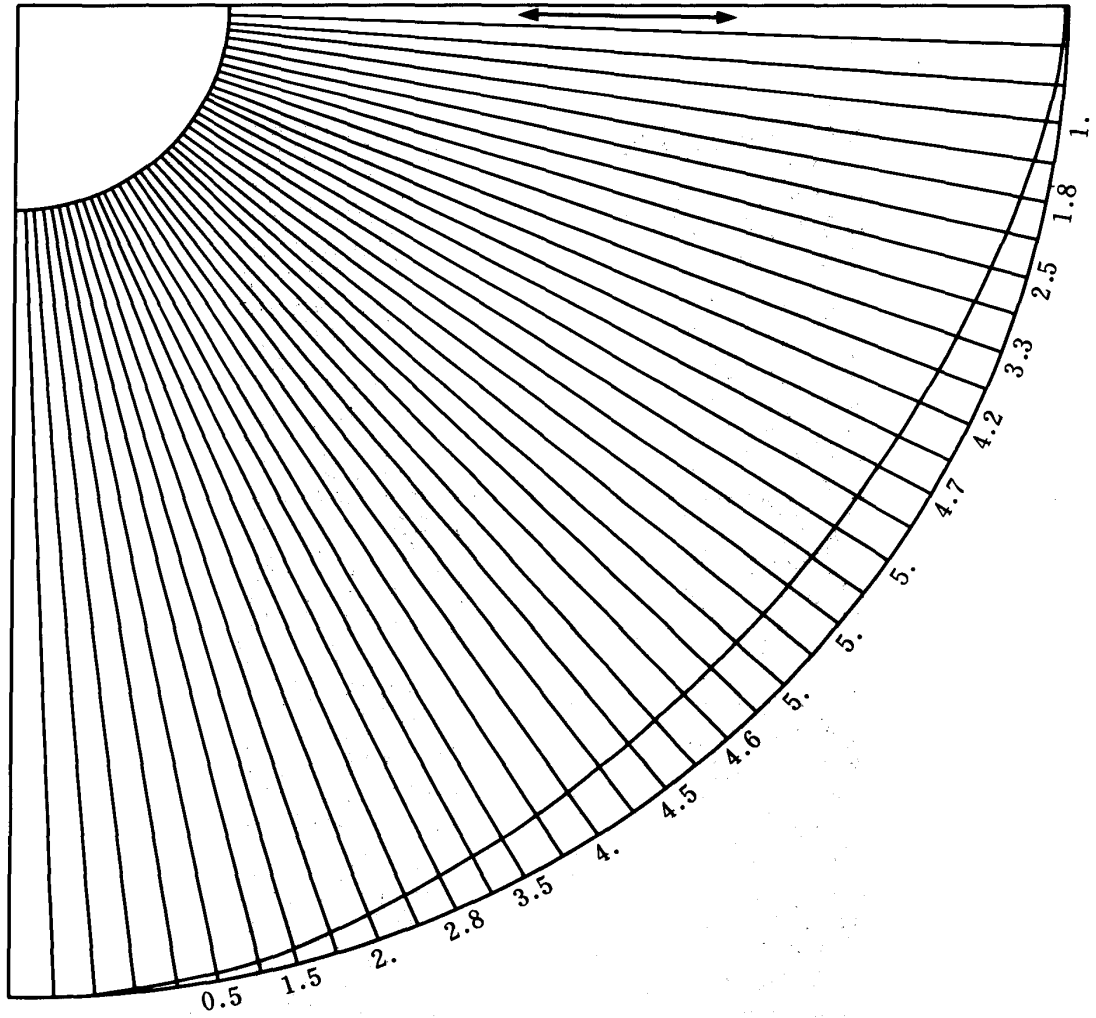
素材はジャカードの薄手で波紋模様がサテンに織ってある。事前伸しは薄地なのでドライアイロンで2回伸しすぎないように適温で処理し、戻りを考慮して4日間スタンに垂下してから裁断した。型紙合わせは自然に垂下したスカート地に型紙を無理のない状態で合わせることである。中央バイアス部分と、たて地・よこ地の中間部分がだぶりとずれがでやすいので、表面のみでなく裏面を返してスタンに垂下して、スカート地と型紙が自然な状態で合わせられているか十分に検討して合わせた。W、Lのギャザー量を脇寄りに入れてプリーツの流れを安定するようにした。プリーツ熱セットは薄手でやりやすく2週間経ってもねじれもなくきれいな安定したプリーツができた。試作1と同じ型紙でプリーツを折ったがシルエットが小さくできた。素材が薄手のジャカードで白地にサテンの波紋模様なので優しい清楚なプリーツスカートができた。

試作 3

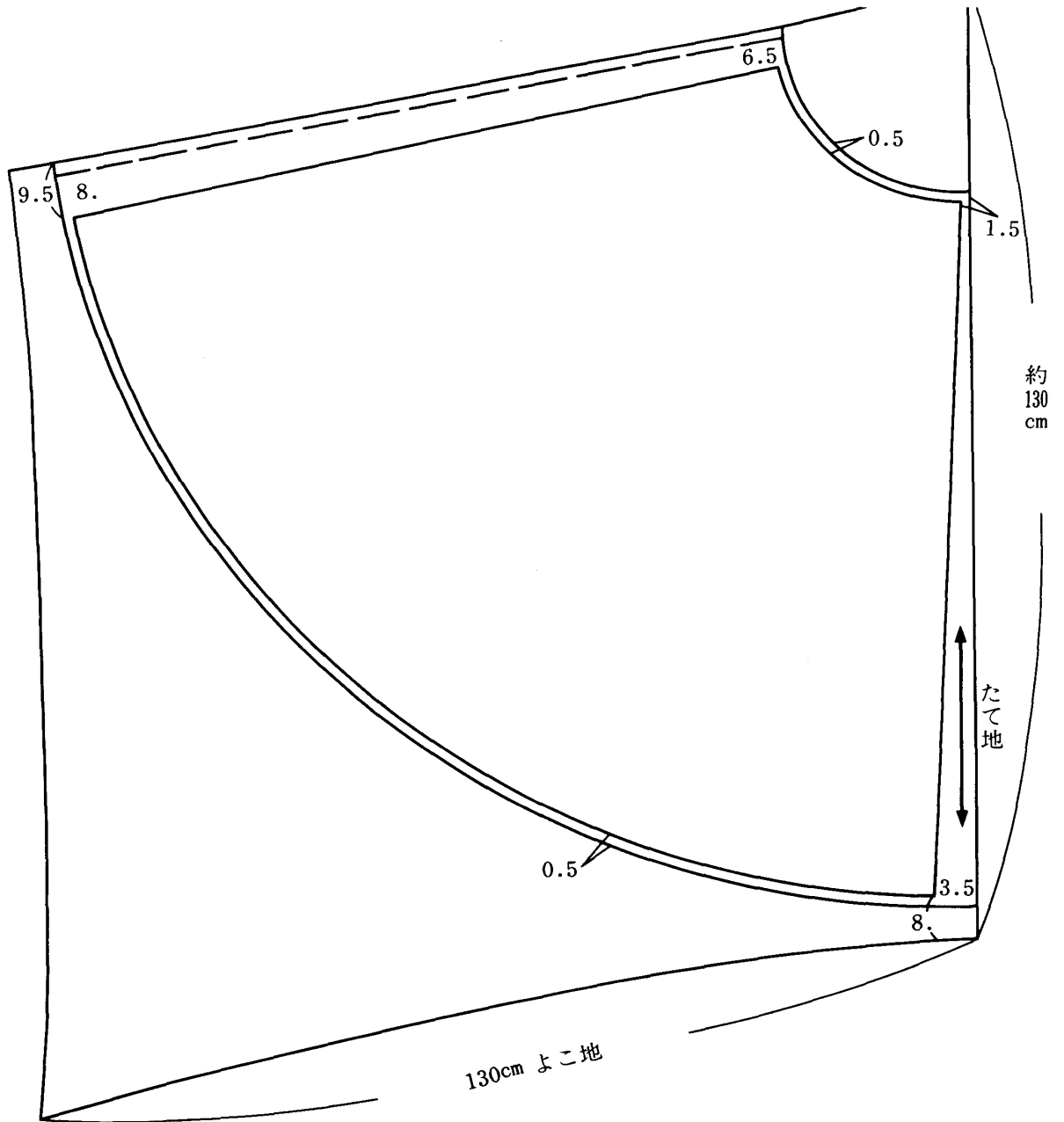


素材 ジャカード (やや厚手) リボン模様ポリエステル100%
丈 130cm 巾 130cm

試作3 垂下による表ひだ山伸長度



試作3 事前伸し後の布の変形・裁断・プリーツ折り山しつけ後の脇線ずれ



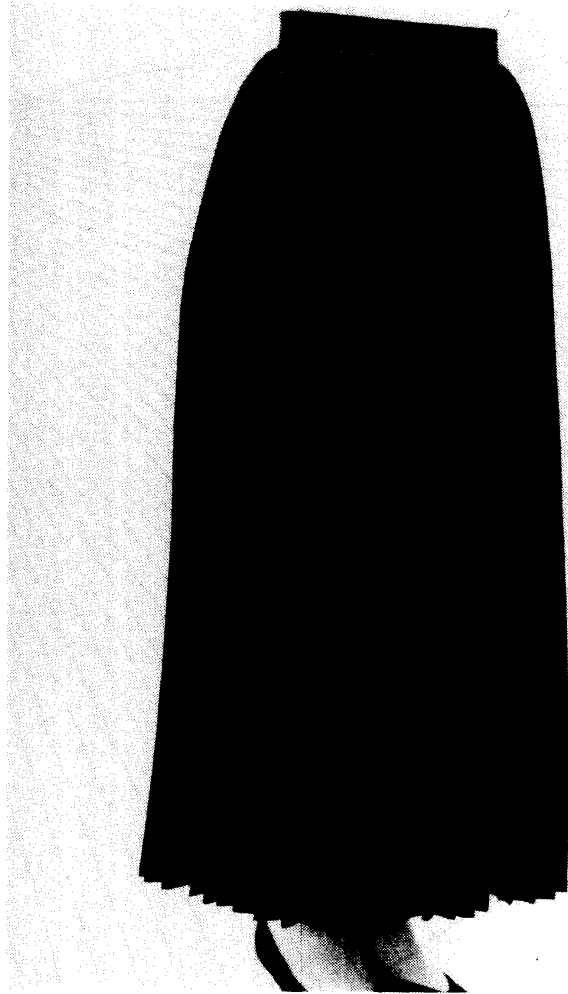
試作 3

素材 ジャカード (やや厚手) ポリエステル100% 黄土色でリボン模様

素材はジャカードのやや厚手で可愛らしい結びリボン模様が布面に織られている。事前伸しはスチームアイロンで2回伸したがやや厚手のジャカードなので伸びは少なかった。事前処理後4日間スタンに垂下し戻りを考慮してから裁断した。型紙と布地合わせでは中央バイアス部分とたて地・よこ地の中間部分にだぶりとずれができやすいのでスタンに垂下して自然の状態と型紙と合わせた。そして表面のみでなく、裏面を返しながら布目の動きを検討しながら合わせた。プリーツの熱セットは素材がやや厚手のジャカードなので1本の折り山に折り目つけのアイロンと両端から2回ずつ計5回アイロンがけした。熱セットは時間をかけて丁寧に努めて均一にアイロンがけした。素材がやや厚手のジャカードなのでプリーツ折り山に重み加わって一部にねじれができたと思われるので再度アイロンがけしてねじれを直した。気品のある優雅なプリーツスカートができた。試作3点の中で素材がやや厚手のジャカードなので事前伸しの処理技術とプリーツ熱セットの技術など難しい点が多かった。

アンブレラ・プリーツスカート

II 作 例



(1) 材料

スカート地…やや厚手ジャカード

ポリエステル100%

付属品…インサイドベルト・ミシン針11番

ミシン糸（ポリエステル糸）

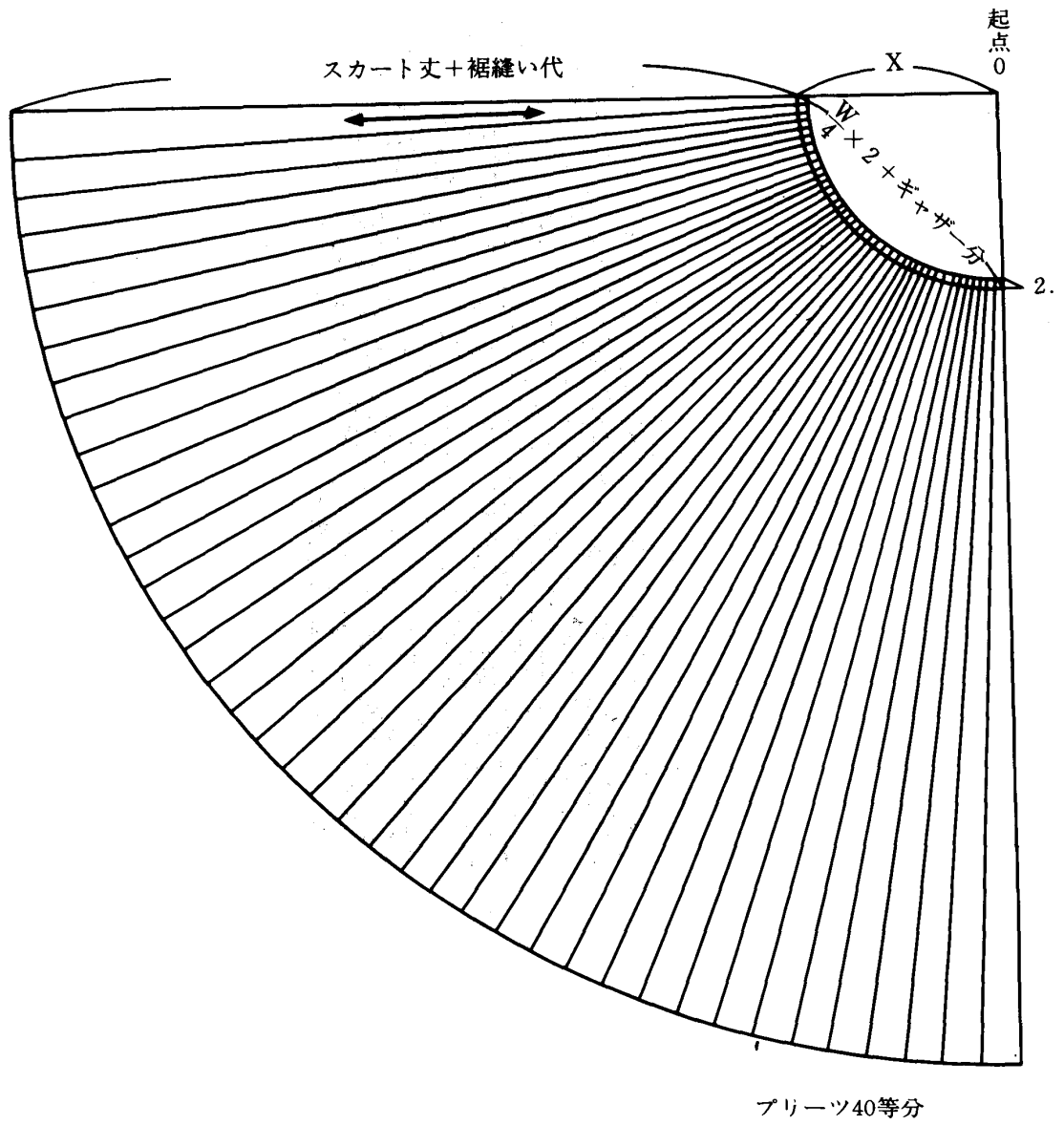
(2) 採寸

ウエスト寸法…64cmスカート丈…90cm

(3) 作図

アンブレラ・プリーツスカート (下前スカート)

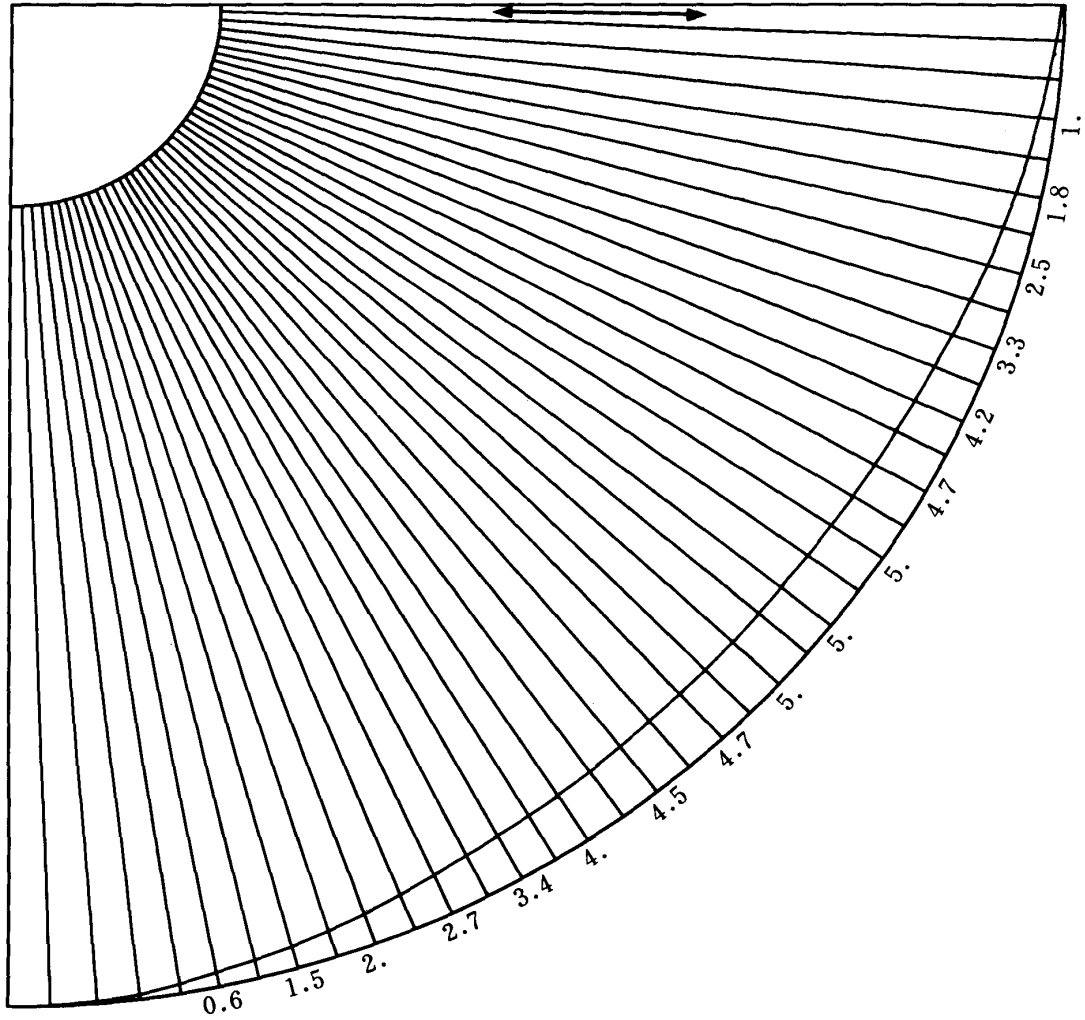
(上前スカートは試作作図に同じ)



- (4) あら裁ち
スカート丈+35cm
- (5) 事前伸し
スチームアイロンで2回伸したが伸びは少なかった。事前伸し後4日間スタンに垂下しておく
- (6) 裁断
試作と同じ
- (7) 型紙合わせ
スタンにスカート布を垂下して、中心からつり合いを調べながらピンを打ち表面のみだけでなく裏面を返してだぶりがいないか布目の様子を十分に検討しながら合わせる
- (8) プリーツ山にしつけ
絹ミシン糸1本で表ひだ山とかげひだ山の色を変えて、2目落しでしつけする
- (9) プリーツの熱セット
表ひだ山をW、Lから裾にアイロンで折り目つけしてから、次に当て布に水をふくませてアイロンで押える。これを2回繰り返す。反対側からも2回熱セットして次に裏ひだ山はハロン紙を当て熱セットする。円形裁ちの4枚はぎなので4枚プリーツ熱セットする。プリーツ数が多いので十分に時間をかけて1本1本丁寧に努めて均一に熱セットすることである
- (10) W、Lを $\frac{W}{4}$ にちぢめる
型紙をはずして、プリーツのW、Lで0.3cmひだをピンで止めて、カタン糸1本でぐし縫いして $\frac{W}{4}$ にちぢめてスタンのW、Lに止め約1週間垂下しておく
- (11) スカート丈をきめる
スカート丈をきめてピンを打ち、床から計ってピンを打ち裾を裁ち揃える
- (12) 裾縫い代にロックミシンがけ
- (13) 裾まつりして、裾アイロンで押える
- (14) 脇縫い
右脇縫いミシンして1.5cmのロックミシンがけ。左脇あき20cmあけてミシンがけして次にあき止りから2cmまでロックミシンしてあきの部分は別にロックミシンがけする
- (15) 表ベルトにインサイドベルトつけ
- (16) ベルトつけで仮縫い
プリーツが直線的に流れるように補正する

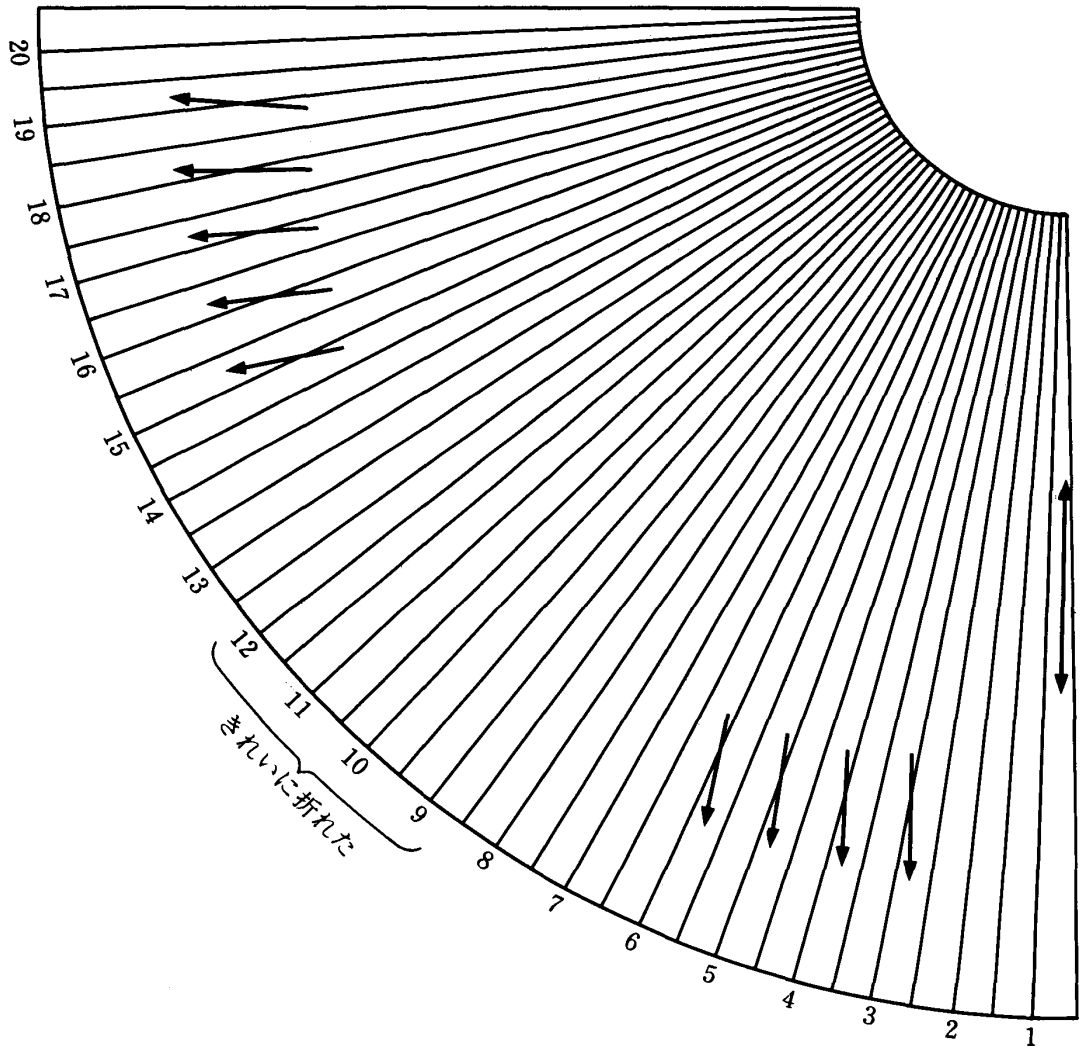
- (17) ベルトつけ
- (18) スナップとホックつけ
- (19) 仕上げアイロンがけ

作例 垂下による表ひだ山伸長度



プリーツのねじれの位置

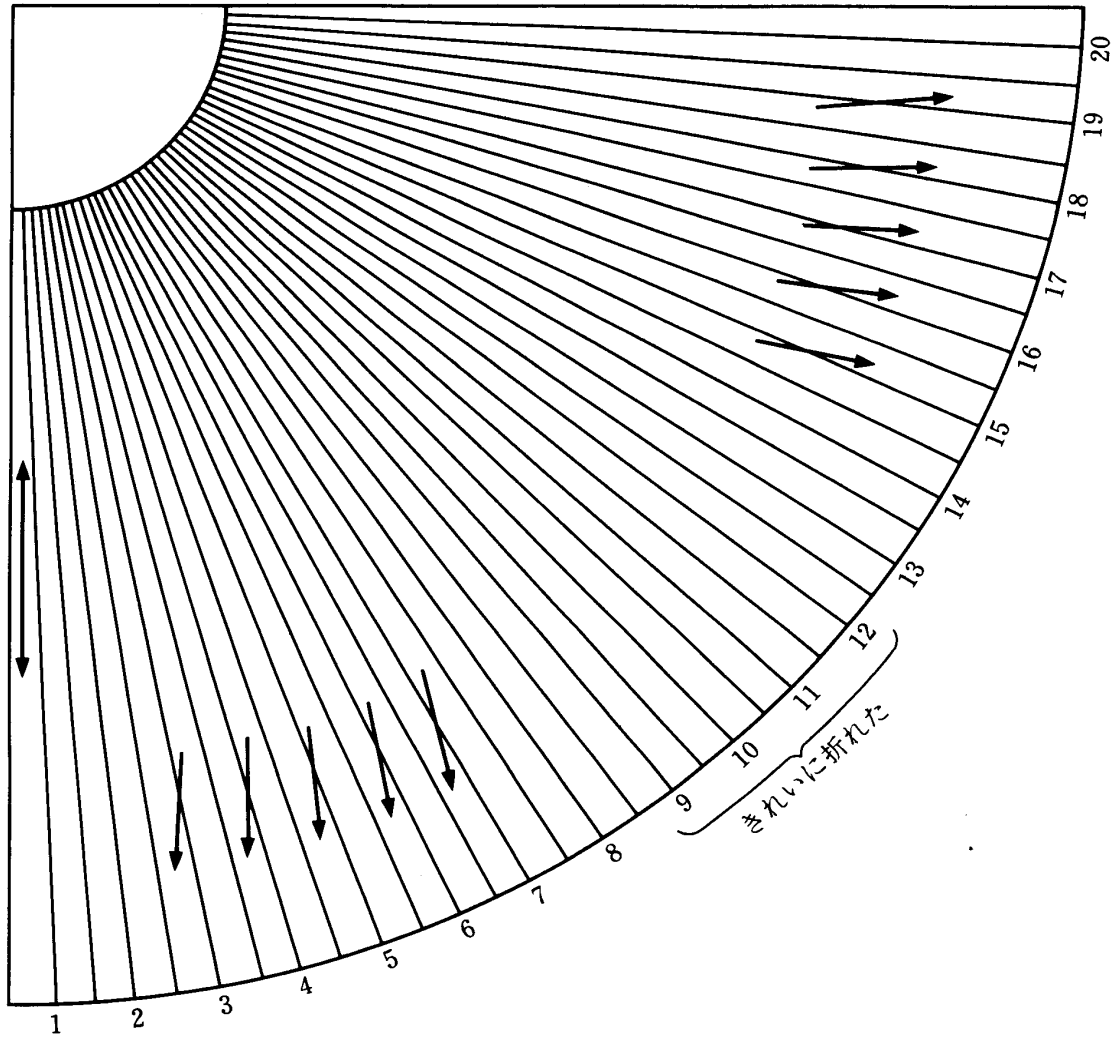
No.1 前スカート 上前(右)



表ひだ山の3・4・5・6本目はたて地側にやゝねじれがみられ、表ひだ山の15・16・17・18・19本目はよこ地側にやゝねじれがみられたので、その部分を斜・たて・よこと布を引いて垂下し状態を検討して0.5づつアイロンで伸ばしたがやゝカーブがみられる。

プリーツねじれの位置

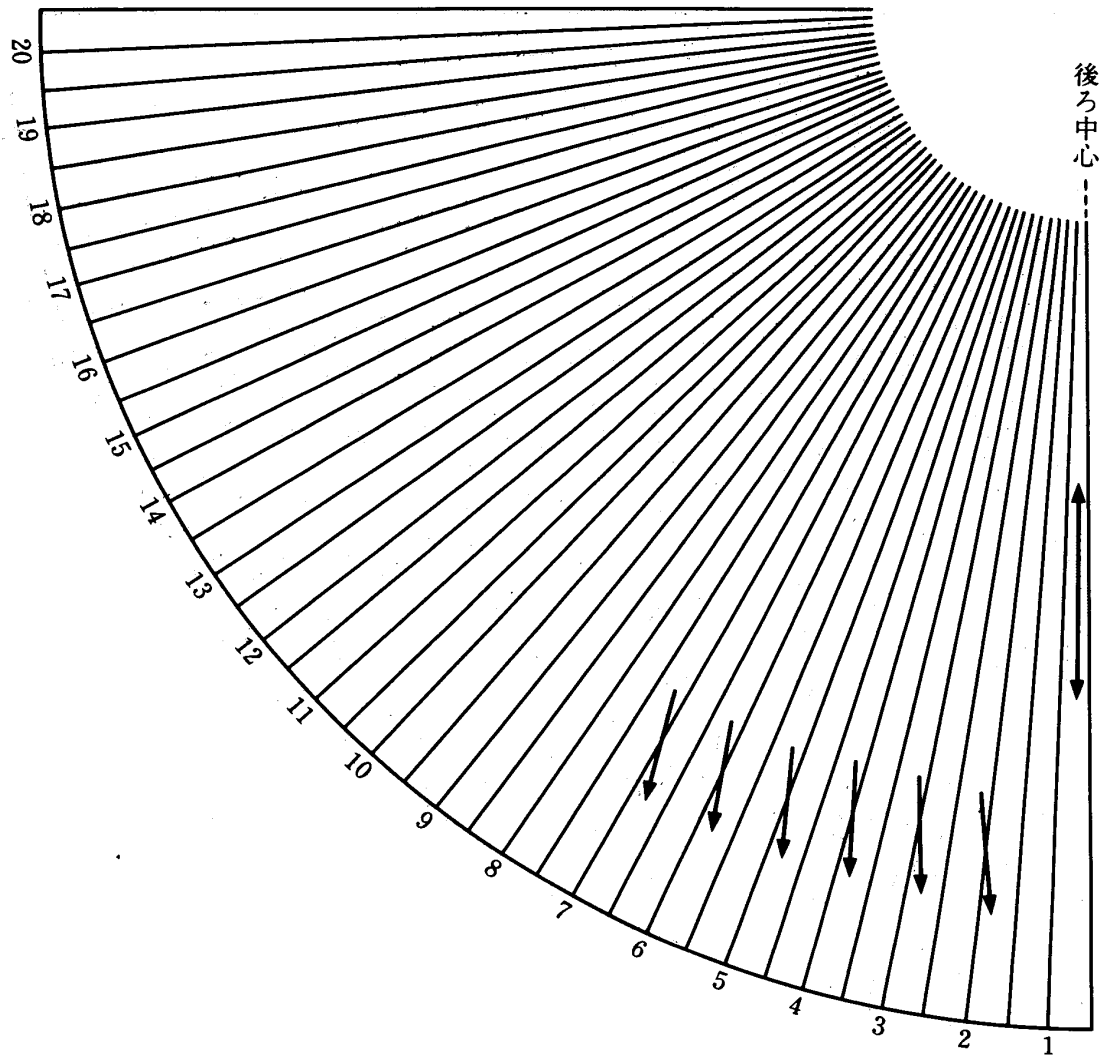
No.2 前スカート 下前 (左)



表ひだ山の3・4本目と15・16本目がやゝねじれがみられたので斜・たて・よこと手で布を引いて垂下して状態をみて0.5づつアイロンで伸して直したがやゝカーブがみられる。

プリーツねじれの位置

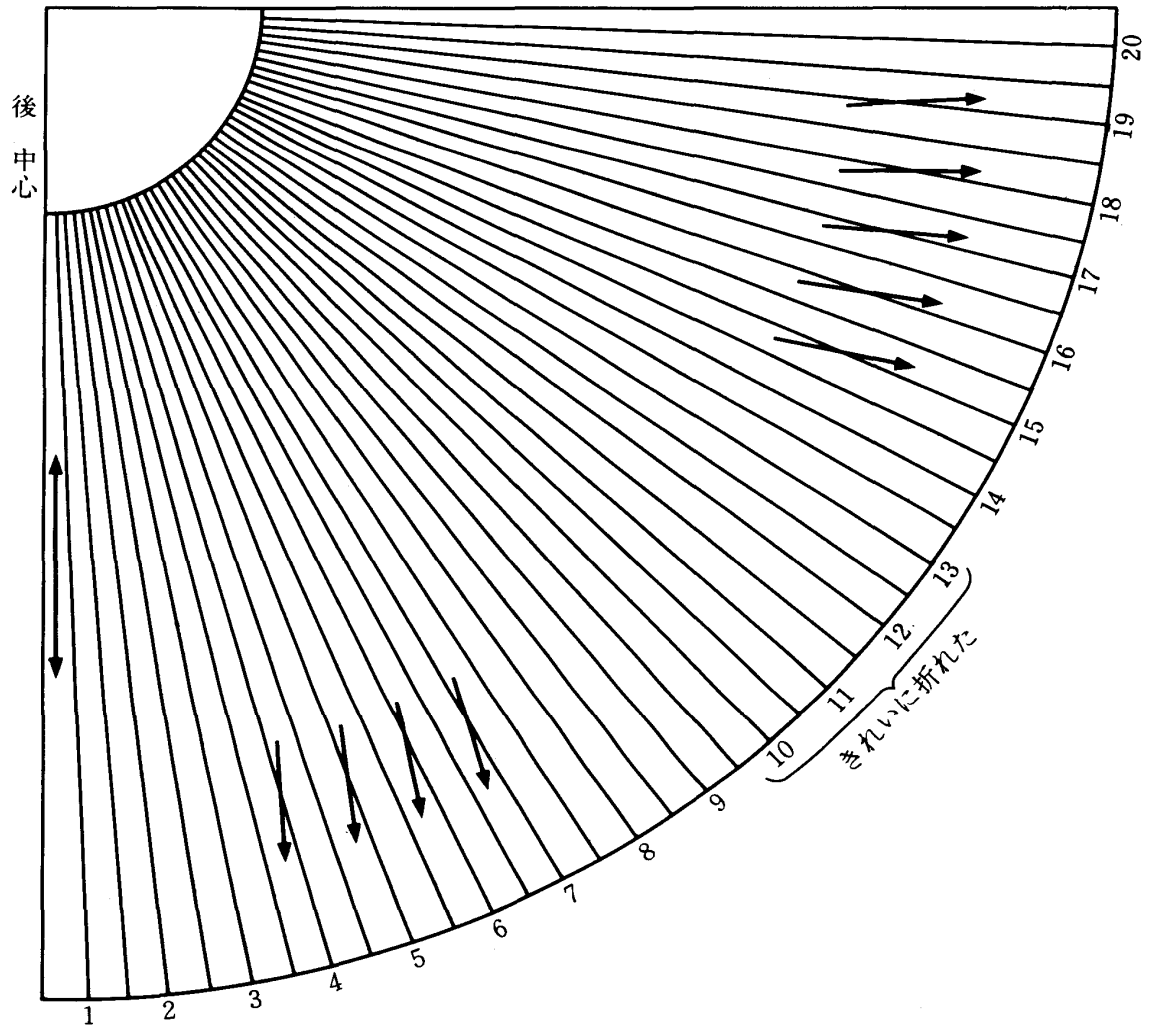
No.3 後スカート 下前(左)



表ひだ山の2・3・4・5・6・7本目は後中心にやゝねじれがみられたので、その部分を斜・たて・よこに手で引いて垂下して様子を見て0.5づつアイロンで伸して直したがやゝカーブがみられる。

プリーツねじれの位置

No.4 後スカート 上前 (右)



表ひだ山の4・5・6・7本目が後中心のたて地側にやゝねじれ、15・16・17・18・19本目は脇のよこ地側にやゝねじれがみられたので、その部分を斜・たて・よこと布を引いて垂下し状態を検討して0.5づつアイロンで伸ばしたがやゝカーブがみられる。

考 察

放射状にプリーツスカートを折る種類の中で、雨傘のようにプリーツを折りたむアンブレラ・プリーツスカートをロングで、実物大で熱可塑性大のポリエステル繊維を使用し試作・作例を実際に製作する方法で美しく安定した、アンブレラ・プリーツスカートの制作できる要因を考察した結果次の通りである。

事前伸しの処理・型紙合わせ・プリーツ熱セットとその段階の処理をいままでの経験を基にして試作・作例して試着したところ一部にプリーツの乱れがみられた。バイアス部分は美しく安定したプリーツであるが、バイアスに使い部分にH、Lからプリーツがやゝ開いた状態がみられ、たて地部分はたて地側に一部カーブし、よこ地部分はよこ地側にカーブが裾近くでみられる。その要因は単純なプリーツ山1本の伸長のみでなく、アンブレラ・プリーツスカートのように布幅の広さいっばいのパターン内に、異なった伸長率をもった布目に折られるため、互いに隣接のプリーツの伸長度の差がある部分は、素材により重みも加わって布目に偏位がおこり伸長度大のプリーツが伸長度小のプリーツに引かれてカーブすると思われる。バイアスの伸びが伸長度の少ないたて・よこ地側に裾でカーブしているのがみられる。いろいろの要因が組み合わされたアンブレラ・プリーツスカートは、試作の小部分が大きな同位置と同じ結果にならなかった。試着して静止の状態ではプリーツのカーブが一部目にとまるが、歩行の状態ではプリーツの揺れと一緒に動き優雅なアンブレラ・プリーツスカートである。

美しく安定したアンブレラ・プリーツスカートをロングで製作する上で最も素材選びが大切で布幅が広いことが第一で平面重が少なく織りが平均していて熱可塑性大の布を用いることが大事であると思われる。美しく安定した、アンブレラ・プリーツスカートをロングで製作できる要因を考察するため、試作・作例したが十分な考察を得られなかったがプリーツのカーブ現象をデザインに応用・活用し美しく個性的なプリーツスカートの一つの糧になるように次回への課題としたい。

(本学専任講師)